鳥取県地域医療支援センター 広報誌

2023 / Winter vol.08

DOCトリ!

鳥取の地域医療を考えるマガジン　ードクトリ！ー

DOCトリ!

第8号　2023年1月発行　鳥取県地域医療支援センター

特集1　岩美病院長・智頭病院長・地域医療学教授
東部地域医療座談会

特集2　とっとりの医師の状況

※本誌掲載の写真、図版、記事などの無断転載を禁じます。

鳥取県地域医療支援センターからのお知らせ

NEWS 1

地域医療教育に参加しています！「くろさか春夏秋冬セミナー」

本セミナーでは、医学部医学科、保健学科、近隣校の米子YMCA医療福祉専門学校の有志学生が集まり、地域住民の方の暮らしを知るとともに多職種連携についても体験し考えることができます。こうした鳥取大学医学部地域医療学講座が行っている地域医療教育の取り組みに、当センターの紙本特命助教も教員として参加しています。

8月11日（祝）と11月3日（祝）の2日間、日野郡日野町黒坂地区の地区視診を実施しました。地区の様子を観察したり、地域住民の方にインタビューをしたりした後、グループごとでディスカッションを行いました。学生のうちに地域の課題を探求することは、将来の医療実践に大いに役立つことでしょう！

NEWS 2

第2回キャリア講演会（予告）

「奨学金制度を利用した先輩医師は、どこでどんなふうに働いているの?」という医学生の疑問にお答えするために、キャリア講演会を今年も開催します。

鳥取県奨学金制度を活用され、現在様々な分野で活躍中の卒業医師に、これまでのキャリアをお話しいただきます。

在学中の地域枠学生や奨学金制度利用をお考えの皆さんの参加をお待ちしています！

開催時期　2月中旬～3月中

形式　オンラインまたはハイブリッド

※申し込みの方に開催情報をお送りします。

開催日時、申し込み方法など詳しくは、鳥取県地域医療支援センターホームページ「おしらせ一覧」をご覧ください。1月のメールマガジンでも配信予定です。

鳥取県地域医療支援センターについて

鳥取県地域医療支援センターは、鳥取県・鳥取大学医学部附属病院が連携し、鳥取県の地域医療の充実・発展のために2013（平成25）年1月に設置されました。私たちは、鳥取県の医師不足解消のために、地域枠などの医師のキャリア形成支援や医師の地域偏在解消に取り組んでいます。専任医師も勤務しており、皆さまのご相談などを伺っています。

ご相談やお問い合わせはこちらまで

鳥取県の医療・奨学金制度に関すること

鳥取県福祉保健部 健康医療局 医療政策課
〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220
TEL 0857-26-7195　FAX 0857-21-3048

医師のキャリア形成・相談に関すること

鳥取大学医学部附属病院 鳥取県地域医療支援センター
〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1
TEL 0859-38-7005　FAX 0859-38-7006

とっとりドクター Naviの配信を始めました

ご登録いただいた方には、『DOCトリ!』を毎号お届けします！

鳥取県の地域医療に関心をお持ちの全国の高校生・医学生・研修医の皆さまに向けて県内の医療情報や勤務に関する情報、医師としてのスキルアップに役立つ情報をメールでお届けします。どなたでもご登録いただけます。

「とっとりドクター Navi」ご登録住所の確認について

とっとりドクター Navi登録者の皆さまにおかれまして、勤務先の変更や転居により送付先住所に変更がございましたら、お手数ですが鳥取県地域医療支援センター（本ページ末尾）までご連絡をお願いいたします。なお、ご登録情報の変更については、鳥取県医療政策課ホームページの登録申込フォームでも承っております。

とっとりドクター Navi

登録申込フォーム ▸▸▸

https://www.pref.tottori.lg.jp/273080.htm

広報誌名『DOCトリ！』の由来

「DOCTOR」と「鳥取県」を合わせた造語です。医師の皆さんに、鳥取県で活躍してほしいという願いが込められています。

編集発行　鳥取県地域医療支援センター

〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1（鳥取大学医学部附属病院内）　TEL 0859-38-7005　FAX 0859-38-7006
Eメール t-chiikicen@med.tottori-u.ac.jp　ホームページ https://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/t-chiikicen/

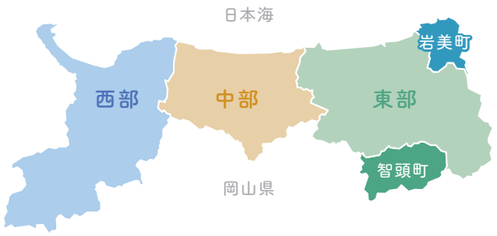
□ 制作／有限会社キーワード　〒680-0051 鳥取県鳥取市若桜町39 ロゴス文化会館1F　TEL 0857-29-4018

岩美町

岩美町国民健康保険 **岩美病院**

診療科 9科　病床数 110床

県の最東北端にある岩美町で、漁業者の多い海沿い、棚田での稲作が中心の山間地と、暮らしぶりの異なる住民の健康を守る町内唯一の入院医療機関。2004年に新築移転し、健康づくりや福祉施策、介護サービスが総合的に提供できるよう保健福祉や介護在宅部門を併設。入院中と同じ医師が訪問診療を行い、在宅医療へのスムーズな移行と連携に力を注いでいる。



智頭町

国民健康保険 **智頭病院**

診療科 12科　病床数 144床

県東部の南側、岡山県との県境に位置し、約93％が山林という智頭町の中心部にある。標準的医療を基軸に、一次・二次救急医療にも対応。また、早い段階から介護福祉施設を併設し、地域住民に切れ目のないケアを提供できる連携体制を整備している。訪問診療・看護・リハビリ・薬剤指導も行っており、地域包括ケアシステムの一端を担っている。

岩美病院長・智頭病院長・地域医療学教授

東部地域医療座談会

小さな声に耳を傾け、力を合わせて地域を幸せへと導く灯（ともしび）に。

「医師が診察室の中でできることは限られている」、鳥取大学医学部地域医療学講座の谷口晋一教授はそう言う。「人は、いろんなものが複雑に絡み合う中で暮らしている。だから、患者さんの治療や健康維持について根本から手当していこうと思うと、地域内の様々なところや人と関わって、改善や調整をしていかないと決してうまくいかない」。

周囲を高い山に囲まれた奥深い集落もあれば、青い海に面した静かな港町、船でしか行き来できない離島など、地域といっても様々な場所がある。そこでは当然、住民の気質や暮らしぶりも違えば、抱えている健康課題も違う。だが、おおよそ共通するのは、市街の大きな病院まで通うことが難しい高齢者にとって地域の病院・診療所はまさに〝命の砦〟ということ。

だからこそ、地域医療に求められるのは診察室での診療だけではない。訪問看護に介護支援、在宅リハビリテーションはもちろん、定期健康診断やがん検診、健康寿命を延ばすための健康教育・保健指導など多岐にわたる。行政の担当課や病院のスタッフをはじめ、保健師やヘルパー、近所の人までも巻き込んで、みんなで連携協力しながら地域の皆さんの幸せな暮らしを支えていくのだ。

県東部にある岩美病院と智頭病院は、そうした地域医療に真摯に向き合う自治体立病院だ。今号の特集1は両病院の病院長をお迎えし、谷口教授をコーディネーターに座談会・第3弾をお届けする。厳しい現状や課題もあるが、人材育成に関する新しい提案、それぞれが感じている地域医療の面白さといった話題もあり、次世代の医師たちへ送るエールが込められている。

次世代へ送るエール

地域医療の課題と魅力

岩美病院長・智頭病院長・地域医療学教授

東部地域医療座談会

医療・保健・福祉が一体化 町ぐるみで住民を支える

▼谷口　岩美町は日本海に面した県の東北端にあり、智頭町は山林に囲まれた中山間地ですが、まずはそれぞれの地域や病院の特徴を教えてください。

▼尾﨑　岩美町は確かに海に面していますが、南側はすぐ山なんです。そして、海側の住民と山側の住民ではタイプがちょっと違う。海のほうは漁師さんが多くて、言葉が少し荒い。新しく赴任してきた医師たちがびっくりすることがあります(笑)。

そんな中で岩美町、そして隣接する兵庫県新温泉町も含めた医療圏の地域医療を守ることが当院の一番の役割だと考えています。「町民のいのちと健康と生活を守る」を基本理念にしており、我々医師は〝生活〟というところに重きを置いています。

▼足立　私は智頭病院に赴任してまだ日が浅いんですが、智頭町は病院と住民との距離がすごく近いと感じています。それから、集落ごとにソーシャル・キャピタル[※]を守っていこうという地域力がありますね。行政の支援を受けながら地元住民が自主的に自助・互助の体制を整えていて、それが基盤になっています。それもあってか、高齢化率は高いんですが要介護認定は少ないんですよ。お年寄りが比較的元気です。

▼谷口　それは良いですね。通院患者さんでも90代の方が結構おられます。

▼足立　通院患者さんでも90代の方が結構おられます。

▼谷口　ソーシャル・キャピタルによって集落内での支え合いができていると?

▼足立　はい、それを保つように町役場がフォローしています。だから、人の顔が見えているんです。医師や看護師だけではなく、病院の管理者であってもデイサービスに通っている高齢者に声をかけられるぐらい顔と名前が分かっている。それが見えているのはすごいことだと感心しました。

智頭病院はケアミックスで、同じ建物内に介護老人保健施設、特別養護老人ホームがあり、さらには町役場の福祉課、社会福祉協議会もあります。だから、例えばケア会議を開催する場合もすぐに集まれます。医療・保健・福祉が連携を取りやすい設定になっているのが特徴です。

▼尾﨑　岩美病院も2004年に新築移転した際、施設内に「岩美すこやかセンター」という保健福祉や介護在宅部門が設けられています。

▼谷口　地域で住民を支えていく仕組みを病院と行政が連携して行っているんですね。これほどの体制が整っている町はありませんので、そこは大きな特徴ですね。

▼足立　しかし、若い世代だけでなく高齢者人口自体も減少する中で、外来診療も入院も減る一方。将来は単町だけでは病院運営が成り立たなくなると予想されます。このケアミックスを活用し、今後鳥取市内の高齢患者を受け入れるような連携強化を進めていく必要があります。

▼谷口　西部の日野病院の話を聞くと、同じように外来患者数は減っているようです。

[※]ソーシャル・キャピタル
社会や地域コミュニティーにおける人々の相互関係や結び付きを支える仕組み、社会的ネットワーク。

TAKAYUKI OZAKI
尾﨑　隆之 院長
岩美町国民健康保険 岩美病院

鳥取市出身。大阪医科大学医学部卒業。同大学附属病院勤務後、1987年より京都市の堀川病院へ。同院は当時先進的な在宅医療を行っており、京都西陣地区で「ほぼ在宅、時々入院、最期は在宅看取り。入院後も主治医変わらず」という地域医療に従事した。2000年より岩美病院へ。京都で培った医療を岩美町にも生かし、地域医療構築に尽力。20年より現職。

SEIJI ADACHI
足立　誠司 院長
国民健康保険智頭病院

琴浦町出身。自治医科大学医学部卒業。総合診療医として、県内各地の自治体立病院・診療所で地域医療を担う。2006年より倉吉市にある藤井政雄記念病院で山陰初の緩和ケア科病棟長に就任、終末期医療に取り組む。10年、第1期生として緩和医療専門医を取得。13年に鳥取市立病院へ、診療局長、地域医療総合支援センター長を務める。22年10月より現職。

SHINICHI TANIGUCHI
谷口　晋一 教授
鳥取大学医学部医学科 地域医療学講座

鳥取市出身。鳥取大学医学部卒業。同第一内科(現・病態情報内科学)入局。2010年、地域医療学講座の教授に就任。地域医療の実践的な医学教育を進めている。さらには、14年鳥取大学地域医療総合教育研修センター、19年同家庭医療教育ステーションの開設に尽力。19年より県内初となる総合診療専門医の育成に取り組んでいる。

地域医療に正解はない。
患者に、地域に、
自分自身に問い続ける——

若手の定着を促す秘策は地域派遣の3年セオリー!?

▼谷口　医療人材の課題は何かありますか。両病院とも、ベテラン医師はいるが中堅層が少なく、若手医師は県からの地域派遣という構成のようです。

▼尾﨑　私が赴任した約20年前はもう少し中堅医師がおり、若手の先生も自分から進んで地域に残る人がいました。だから、「そのうち県派遣医師の誰かが戻ってきてくれるだろう」とそんなに心配していなかったんですが、結局戻ってこなかった。地域医療に魅力がないのか、アピール度が少ないのか。

▼足立　智頭病院も同じです。自治医科大学の話になりますが、医学生の時は「総合診療医を目指したい」という高い理念を持っています。でも、いざ臨床研修病院へ行くと、指導医は専門分化された領域の先生方なので、知らず知らずのうちに「何か専門を身に付けなくては」と思ってしまう。

▼谷口　大きな病院にいると、患者の生活を支える、しっかり向き合うということが希薄になりがちですが、地域の病院ではそこを継続して見ることができます。若手医師でもそういう地域医療らしい部分に魅力を感じる人はいないのでしょうか。

▼尾﨑　熱心な人もいるけど、そう多くはないかな。

▼足立　派遣期間の問題もあるでしょうね。私自身、1〜2年ごとの地域派遣勤務だったんですが、最初の1年間で地域や住民のことが分かり始め、地域医療の在り方に問題意識を持ちます。でも、1年派遣だと1人では問題解決に向けて動けない。では2年目はというと、何かアクションを起こすにはお金が必要なので、行政と話し合って予算を取らなければならない。そうしてようやく3年目に行動に移すことができる。ですから、3年以上同じ医療機関にいて、町の人たちとやりとりする経験がないと本当の意味での地域医療の実践にならないように思います。私も名和診療所に3年いてようやく分かりましたから。

▼谷口　地域医療学講座でも総合診療専門研修の専攻医を派遣していますが、1年での異動について意向を聞くと「もう1年いさせてください」と言うんです。この3年セオリーというのは腑に落ちるお話です。いったんは何か専門性を深めるにしても、「もう一度地域に戻ろう」という気持ちを後押しするような仕組みが必要ですね。

地域医療は〝匠の世界〟やればやるほど面白い

▼谷口　私は、地域医療は医学の中で最も人文的なものではないかと考えています。哲学だったりマネジメントだったり、あらゆる分野の知を集合して考える必要があり、非常に複雑。それがすごく面白いんです。先生方は地域医療の意義、面白さをどのように感じておられますか。

▼尾﨑　高齢の患者さんにとって「いい最期」って人それぞれなので、その人にとって何が一番いいのかを考えることですね。日々の暮らしや家族背景なども含めて、患者さんを「面」で捉える。そこには長い時間軸もあって、例えばある患者さんが以前に親を看取っていて、10年たって次は自分が疾患を持ち、病院に来られる。そして私たち医師は、またその家族ごとみていく。それが地域医療であり、そこに面白さがあると私は思います。

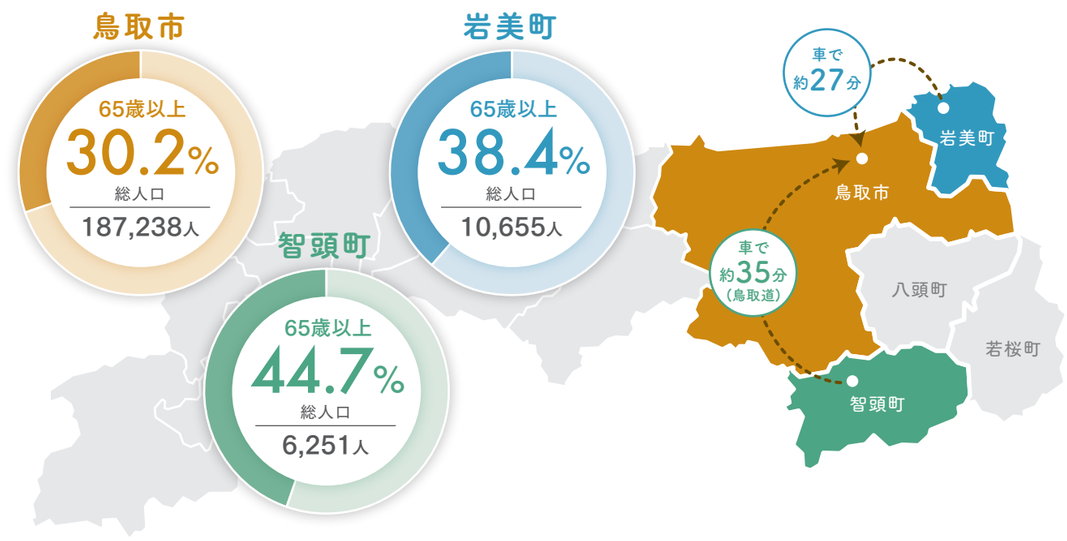
▼足立　私は、地域医療は「匠(たくみ)の世界」だと思います。はじめは面白くないけど、突き詰めていくとすごく味わい深い。だから、入口だけで判断しないでほしい。高度な技術を提供すれば素晴らしい医療をやっているように最初は思いがちですが、実は、自分以外の周囲の力を引き出し、融合させながら実践していく必要がある。「自分は目立たないけどうまくいく」という仕組みづくりが一番の理想ですね。

▼谷口　「匠」とはいい表現ですね。日野病院や大山診療所で1週間の研修を受けた医学生が、「初めて地域の医者らしい仕事をしているところに来たと思った」と話していました。

▼尾﨑　何のために勉強しているのか、何のための知識なのか。それはやはり、患者さんが幸せになるためではないでしょうか。本気で地域のことを考えて働ける医師であってほしいと思います。

▼谷口　そこにやりがいを持てるのが〝地域医療マインド〟を持つ医師だと私も思います。本日はとてもいいお話をありがとうございました。

データで見る各町と鳥取市



とっとりの医師の状況

令和4年3月、厚生労働省から令和2年の医師・歯科医師・薬剤師統計が公表されました。
医師の高齢化が顕著など、改めて本県が抱える課題が浮き彫りになりました。

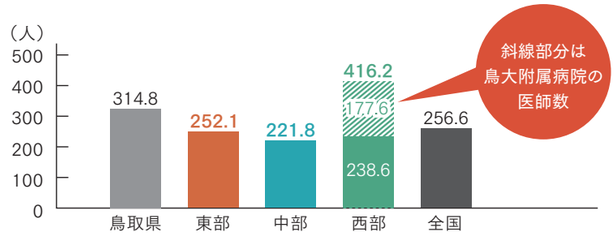
医師数は足りている？

増加傾向ながら医師不足の状況は変わらず

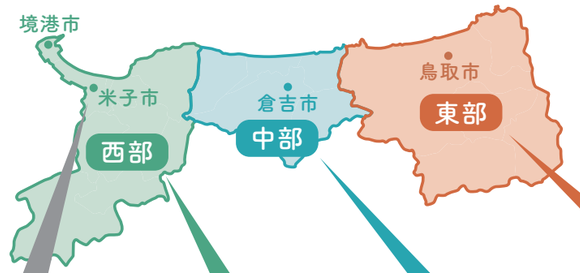
県内最大の医師派遣機能を有する鳥取大学医学部附属病院があることから、西部保健医療圏の医師数は相対的に多くなっています。しかし東部・中部保健医療圏の人口10万人当たりの医師数は全国平均を下回っています。

令和4年鳥取県「医師数に関する調査」によれば、若い医師の県内定着が少しずつ増え充足率は上昇傾向にありますが、医師不足の状況はいまだ解消されていません。

▼人口10万人当たりの医師数　※厚生労働省「令和2年 医師・歯科医師・薬剤師統計」を基に作成



▼鳥取県の圏域別の病院医師の充足数　※令和4年1月現在 鳥取県「医師数に関する調査」



鳥取県全体
43病院
必要数 1,379.7人
現員数 1,185.9人
不足数 193.8人
充足率 86.0%
（前年度 83.2%）

鳥大附属病院
必要数 397.8人
現員数 380.4人
不足数 17.4人
充足率 95.6%
（前年度 92.5%）

西部保健医療圏
鳥大附属病院を除く18病院
必要数 338.5人
現員数 293.7人
不足数 44.8人
充足率 86.8%
（前年度 85.7%）

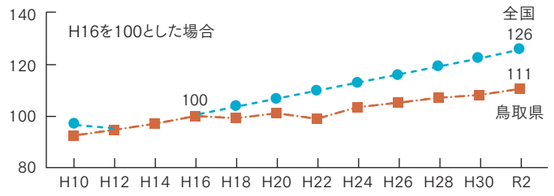
中部保健医療圏
10病院
必要数 200.3人
現員数 145.7人
不足数 54.6人
充足率 72.7%
（前年度 71.8%）

東部保健医療圏
14病院
必要数 443.1人
現員数 366.1人
不足数 77.0人
充足率 82.6%
（前年度 78.1%）

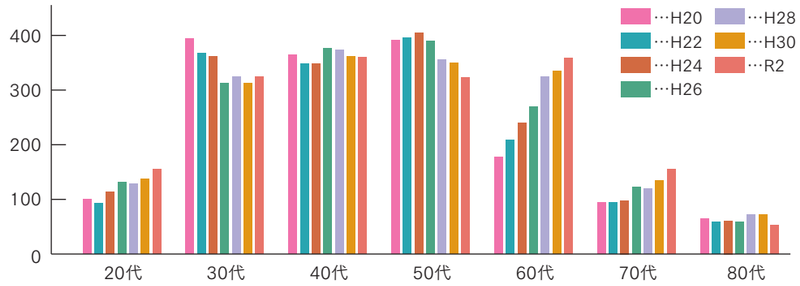
少子高齢化が進む鳥取県、医師の平均年齢も高め？

医師の高齢化が顕著 若手の確保・定着が急務

▼全国と鳥取県の医師数（医療施設従事）の推移の比較
※厚生労働省「令和2年 医師・歯科医師・薬剤師統計」を基に作成



▼年代別の医師数（医療施設従事）の推移
※厚生労働省「令和2年 医師・歯科医師・薬剤師統計」を基に作成



県内の医師数は増加傾向にあるものの、実数は全国最小（R2年：1742人）であり、また、伸び率も全国値を大きく下回っています。さらに医師の高齢化が顕著（R2年では約3分の1が60歳以上）。引き続き、若手・中堅医師の確保が喫緊の課題です。

若手医師確保の状況は？

若手医師確保の取り組み
～臨床研修医が増加～

平成18年にスタートし、順次拡充してきた鳥取県医師確保奨学金の取り組みにより、現在、鳥取県地域枠［※］の学生は157名、医師は162名（指定勤務期間満了者除く）となっており、県内の医療に貢献しています。

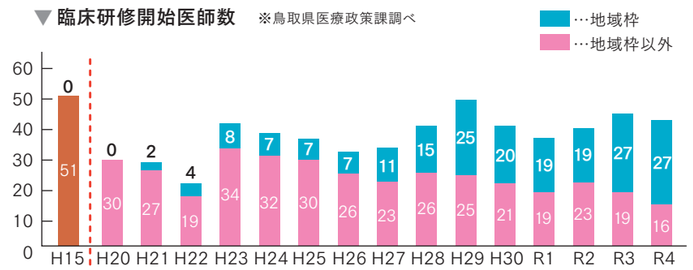
また、地域枠医師の増加や臨床研修指定病院協議会（県と県内指定病院で構成）のアピール活動等により、県内で臨床研修を開始する医師数も増加傾向にあります。

［※］鳥取県地域枠
地域の医師不足と医師偏在を解消するため設けられた「鳥取県医師確保奨学金」制度の利用者。詳しくは次ページを参照。

▼鳥取県地域枠の人数（令和4年度）※鳥取県医療政策課調べ（人）

	学生	医師	臨床研修医	医師3年目以降	指定勤務期間満了者	計
鳥取大学	145	144	51	93	42	331
県外大学	12	18	4	14	3	33
計	157	162	55	107	45	364

▼臨床研修開始医師数　※鳥取県医療政策課調べ



\1度は行くべし!/

TOTTORI★イチオシ名鑑

Enjoy Tottori life!

地元の魅力を知り尽くす謎の編集部員「SR」が、観光地とグルメを毎号1カ所ずつご紹介します。せっかくの鳥取LIFE、楽しまなきゃ損ですよ!

見上げるブナ林、苔むした岩 あふれる緑に癒されツアー

遊 \@Eastern/

氷ノ山自然ふれあい館 響の森（ひょうのせん）

鳥取県若桜町と兵庫県養父市との県境にそびえる氷ノ山は、登山やトレッキングの大人気スポット。とはいえ、初めての場所は不安。そこで頼りになるのが「響の森」です。

少人数向けの「エコツアー」があり、お子さま連れでも楽しめるガイドウォーク、林道をどんどん歩くトレッキング等、様々なメニューをご用意。響の森インタープリターが一緒に歩いて解説してくれるから、氷ノ山周辺の動植物、歴史・風土のことまで分かり、充実の癒し時間が過ごせますよ。館内にある「森のジオラマ」にもぜひ立ち寄ってみて!

グリーンシャワーが心地いい〜♪

住 八頭郡若桜町つくよね635-175 ☎ 0858-82-1620
営 9：00〜17：00（最終入館16：30）
休 【4〜9月】月曜日（夏休み期間中は無休）
【10〜11月】月・火曜日／【12〜3月】月・火・水曜日
※休館日が祝日の場合は翌営業日
¥ 無料 ※響の森エコツアーは有料。Webサイトをご確認ください。
P あり（無料）
JR鳥取駅から車で約1時間

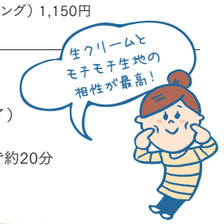
食 \@Western/

ナナイロイズ クレープ 7716's CREPE

一口ずつ味わって食べたい オシャレな大人クレープ

▲左：ラムレーズンとカスタード生クリーム（マダガスカルバニラ・生チョコトッピング）1,150円
右：7716クレームブリュレ 770円

住 米子市両三柳2678
☎ 080-1903-1624
営 11：00〜17：00（なくなり次第終了）
休 月曜日、火曜日、第1・2金曜日
P あり（無料） JR米子駅から車で約20分



生クリームとモチモチ生地の相性が最高!

「山陰をクレープで笑顔にする!」がコンセプトのクレープ屋さん。昨年3月に店舗がオープンすると、たちまち行列ができるほど大人気に。それもそのはず、生クリーム・生チョコ・生地は全て自家製。使用する素材も味と品質にこだわって店主が厳選したものばかり。

甘さ控えめ、大人な味わいが口いっぱいに広がります。特にチョコレートの濃厚さはたまりません。旬のフルーツも実に美味、夏ならアイスクリームやジェラートも。季節限定のお楽しみがいっぱいで、何度訪れても新しい発見と喜びがありますよ♪

鳥取県医師確保奨学金について

医学生をサポートする充実の制度です!

鳥取県では、本県の地域医療に貢献する意思のある鳥取大学医学部等で学ぶ医学生に対して、奨学金の貸付を行っています。この奨学金は無利子であるとともに、県内の医療機関で一定期間勤務した場合は、その返還を全額免除する仕組みとなっています。

複数の種類があり、対象者や入学試験等の条件は様々。医師を目指す受験生にとって、その後のキャリアも見据えた選択肢として注目が高まっています。

	緊急医師確保対策奨学金（特別養成枠）	臨時特例医師確保対策奨学金（臨時養成枠）	医師養成確保奨学金 地域枠	医師養成確保奨学金 編入枠	医師養成確保奨学金 一般貸付枠
月額	15万円	15万円	12万円	12万円	10万円
募集人数	6人※	鳥取大学 14人 / 岡山大学 1人	5人以内	5人	5人（1〜6年生）以内
入学試験・対象者	鳥取大学医学部医学科学校推薦型選抜Ⅱ（特別養成枠） ・県内高校卒業（見込）者（2浪まで） ・県外高校卒業（見込）者（2浪まで）で鳥取県に縁のある者（本人・保護者等の出生地・本籍地・現住所地等が鳥取県内であること等） ※令和4年度入学試験までは5名	鳥取大学 鳥取大学医学部医学科一般選抜（前期日程）（地域枠（鳥取県）） 出身地、卒業年度、高校の所在地を問わない 岡山大学 岡山大学医学部医学科学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠コース（鳥取県）） ・県内高校卒業（見込）者（2浪まで） ・県外高校卒業（見込）者（2浪まで）で、出願時本人または保護者が鳥取県内居住	鳥取大学医学部医学科学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠） 県内高校卒業（見込）者に限る（2浪まで）	鳥取大学医学部医学科学士編入学（2年次編入） 大学等卒業（見込）者で、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、兵庫県の高校卒業者 または、父母のいずれかの現住所が鳥取県である者	対象者 医学科在学生 鳥取大学 出身地、卒業高校の所在地を問わない 県外大学 県内高校卒業者に限る

詳細はこちらから!

詳しい内容を知りたい方は、鳥取県ホームページ「医師確保奨学金の制度概要」の各制度をご覧ください。▶▶▶

その他にも、こんな取り組みを行っています!

地域医療学講座による 医学生の地域医療マインド醸成

地域医療の実践、研究・教育を行っています。中山間地の病院・診療所へ赴き、外来診療や救急対応を行う実習では、プライマリ・ケアの考え方と技能を習得できます。

地域医療支援センターによる キャリア形成支援

奨学金、臨床研修、キャリア形成等、高校生・医学生・若手医師の皆さんのご相談に専任医師が対応します。センターHPのお問い合わせフォームから気軽にお申し込みください。

医学生向け サマーセミナー スプリングセミナー

参加者の声 ※一部抜粋

- 現場を知ることができて大変参考になった。また参加したい。
- 実際に診療を見て患者さんと接することで刺激を受けた。
- 医師だけでなく研修医とも交流を持て、病院での研修医の様子が分かり良かった。

県内病院・診療所を訪問し、地域医療の現場に触れる研修会を開催しています。令和4年夏には県立中央病院、県立厚生病院をはじめとする全7病院で実施されました。